

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年1月11日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：中東情勢、オープニング 【特集】 ゴーン被告～司法批判の裏に何が		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中東情勢 ・ オープニング ・ 台湾の総統選挙 ・ 名城大学准教授刺傷事件 ・ パリ支局長レポート ・ 武漢市の原因不明肺炎で初の死者 ・ 特殊詐欺グループの中国籍女性が出国寸前に逮捕される ・ 茨城県常陸太田市新成人が吊橋からバンジー ・ 江東区でパラ競技イベント ・ 【特集】 ゴーン被告～司法批判の裏に何が ・ 【特集】 きょう投開票～台湾総統選 ・ スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中東情勢：結論→特に問題なし <p>中東情勢について以下に朱記したようにVTRで取り上げられていた。</p> <p>イラン国営テレビ「国軍本部はウクライナ航空の旅客機墜落に関して声明を発表しました。旅客機は意図的ではない人為的ミスにより撃墜されました。」</p> <p>ナレ「イランの国営テレビは11日、衝撃的な声明を伝えました、8日、テヘラン近郊で墜落し、乗客乗員176人全員が死亡したウクライナ旅客機についてイラン軍が誤って撃墜した、故意ではなく人為的ミスだった、と発表したのです。ザリフ外相は犠牲者への哀悼の意を表す一方で、アメリカへの非難をにじませました。」</p> <p>ザリフ外相 (Twitter) 「アメリカの冒険主義が招いた危機的状況の中で発生した人為的ミスだ。」</p> <p>ナレ「旅客機をめぐってはアメリカなどがイランのミサイルにより撃墜された可能性を指摘、これまで否定していたイランは一転して責任を認めました。軍の声明は旅客機が機密性の高い革命防衛隊の基地の方向に飛行しており、当時、最高レベルの警戒態勢をしていたとしています。」</p> <p>トランプ大統領「我々は非常に強い軍事力で相手を排除した。(相手の狙いは)4つの大使館だったと思う。」</p> <p>ナレ「これに先立ちアメリカのトランプ大統領は米軍が殺害したソレイマニ司令官が計画していた攻撃対象についておそらく4つの大使館だったと考えていると述べました。更にトランプ政権はイランの政府高官や企業などに対する追加経済制裁を発表しています。こうしたなか、中東海域での新たな任務が与えられた海上自衛隊のP3C哨戒機の出発式が那覇航空基地で行われました。」</p> <p>"河野太郎(防衛相)「我が国は原油輸入の約9割を中東地域に依存しています、今般の政府の取り組みはこのような地域における日本関係船舶の安全の確保のために行われるものであり、勇気と誇りを持って任務に精励して</p>		

ください。」

ナレ「河野防衛大臣は見送りに来た隊員の家族らに、今回から新たな任務が付与されるがしっかり隊員のバックアップをすると声をかけました。このあと出発した P3C 哨戒機 2 機と海上自衛隊員にはアデン湾での海賊対処行動に加え、情報収集任務が付与されています。今月 20 日からバベルマンデブ海峡東側周辺で活動を始める見通しです。また、安倍総理もサウジアラビアなど、中東参加国を歴訪するため出発しました。」

安倍総理「話し合いによる対話、自制的な対応を促し、日本ならではの平和外交を粘り強く展開していく。」

ナレ「緊迫する中東地域の緊張緩和について話し合う他、海上自衛隊の中東への派遣について安倍総理が各国に直接説明し、理解を求める考えです。」 "

このトピックに当てられた時間は 192 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

オープニングで金平キャスターが「はい、ベイルートです。相当大昔のハリウッド映画を見たような展開でした、カルロス・ゴーン元日産 CEO は年末に日本からレバノンに大脱走を図り成功しました。肝心のレバノン国民の反応はどうだったのか、また、そのレバノンは今、どんな状態にあるのか、後ほど、中継を交えてお伝えします。」とコメントしていた。このトピックに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 ゴーン被告～司法批判の裏に何が～：結論→

膳場キャスターの「特集です。日産元会長のカルロスゴーン被告がレバノンに逃亡した事件。現地で金平キャスターが取材しています。金平さん。」というコメントに現地の金平キャスターが「再びベイルートです。政治と経済の混乱にあえぐレバノンでも民衆の抵抗運動が広がっています。この場所はその中心で、今では、最近では革命広場と呼ばれている場所ですが、がさまざまな価値観や文化が行き来する場所でもあります。カルロス・ゴーン日産元 CEO。彼が逃げ込んだレバノンで、この大脱走はどう受け止められているのか。何が起きているのかな現地で取材しました。」と応えた後に、以下に朱記したように特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「12 月 29 日、午後 2 時半過ぎに撮影された映像。全身黒の服に身を包み歩く人物は、日産の元会長カルロスゴーン被告と見られている。この後レバノンに逃亡した。」

ナレ「逃亡後、メディアの前に現れることはなかったゴーン被告が、今週水曜会見に臨んだ。」

金平「御覧のように大変な数の報道陣が集まっていますけども、その多くは今日の記者会見に中に入れない。」

ナレ「ゴーン被告側は、限られたメディアにしか、取材をさせず、日本の報道陣の大半は、会場から締め出された。」

金平「始まる始まるゴーンが始まるよ。」

ナレ「逃亡から 10 日、初めて公の場に姿を見せたのゴーン被告。自らの口で何を語るのか」

ゴーン被告（字幕）「私には家族を守る以外の選択肢がなかった。非常に難しい選択だった。」

ナレ「前代未聞の逃亡劇の真相とは。」

ナレ「そして昨日日本メディアの取材に応じたゴーン被告は」

ゴーン被告（字幕）「私には発信力（Voice）がある。金がある。他の人にはできない」

ナレ「金融商品取引法違反と、特別背任の罪で起訴され、保釈中だった日産自動車元会長のカルロスゴーン被告。海外渡航を禁止されていたにも関わらず、先月末日本から逃亡した。」

金平「えー明日の記者会見を前にベイルート市内にあるカルロス・ゴーン氏の居宅ですね。邸宅の前に。ご覧のようにたくさんの報道陣が来ていますが、日本のメディアがほとんどですけれども、おそらくベイルートがこう

いう風景、光景ってのが異様な光景だというふうに見てると思います。」

ナレ「中東のレバノンにはゴーン被告にとっては一族の故郷だ。ゴーン被告はブラジルでレバノン系の両親の間に生まれた後、幼少期からレバノンで過ごしている。この女性はゴーン被告の息子を高校で教えていた元教師。父親のゴーン氏しも親しくしていたと言う。」

女性（字幕）「(ゴーン被告は) 息子の学業や宿題までチェックしていました。高校生の子供の宿題をチェックする親はいませんが、彼はしていました。」

女性（字幕）「(ゴーン被告が) 日本の拘置所に入れられていたことを知っていたので、彼が母国に戻れたことに安堵しました。」

ナレ「地元ではビジネスの成功者として英雄視されてきたゴーン被告。だが市民の意識にも変化が現れている。」

ナレ「レバノンでは政府の汚職体質や経済の低迷に市民が反発。2か月以上にわたり反政府デモが続いている。そのためゴーン被告を腐敗した特権階級と見る市民もいる。」

金平「今銀行に対しての抗議運動みたいなのがあってですね、人が集まってるんですけども」

ベイルート市民男性（吹替）「銀行は今資本規制をしています。法律で定められているわけではないのに。そうしています。一週間に200ドルまでしか引き出せません。」

金平（字幕）「Q、ゴーン被告に関心はある？」

ベイルート市民女性（吹替）「いいえ、投資家たちは大嫌いだし、国民をないがしろにして、資本主義を進めることしか関心のない人たちは大嫌い。」

ベイルート市民男性（吹替）「彼を日本に引き渡すべきだと思います。自分のしたことに向き合うべきですが、レバノン政府は腐敗していますから何も変わらないでしょう」

金平（字幕）「Qゴーン被告はレバノンの英雄？」

ベイルート市民男性（吹替）「成功者ですが英雄ではありません」

ナレ「海外メディアで日本に次いで多いのがフランスだ。」

金平（字幕）「Qフランスのメディアが伝えようとしていることは？」

フランス人記者女性（吹替）「ゴーン被告がどのように東京から大阪まで移動したのか、本当に箱に入って移動したの。イスタンブールでどうやって乗り換えたのかそのシナリオを知りたいのです。ジェームズボンドの映画のように。」

金平（字幕）「Qハリウッド映画のような物語に？」

フランス人記者女性（吹替）「誰もができないようなことをやり遂げる姿をね」

ナレ「レバノンのテレビ番組の司会者でゴーン被告と長年親交があるリカルドカラム氏。ゴーン被告が日本から逃亡した事実をいち早く掴み世界には発信した人物だ。」

金平（字幕）「レバノンに帰国したのを知ったのはいつ？」

リカルド氏（吹替）「12月30日です。プライベートジェット機用の空港で働く人から、あなたの友人はレバノンにいと教えられました。私は嘘だと、冗談だと思いました。確認するのに少し時間がかかりましたが、夕方6時に事実だと分かりました。」

金平（字幕）「ゴーン被告との直接連絡は？」

リカルド氏（吹替）「本人に直接連絡することはできませんでしたが、彼の周りにいる人を通じて連絡する方法は知っています。彼に関係のメッセージを送ることは簡単でした」

金平（字幕）「Q彼の行為は正当だと思うか？」

リカルド氏（吹替）「一概には言えませんが、個人的にはもちろんそう思います。公正というのは誰もがもらえる

大きなプレゼントであり自由へ逃れることは誰もが望むことでしょう。」

ナレ「ゴーン被告の記者会見が始まった。日本メディアのほとんどは会場に入ることができなかった。」

ゴーン被告（吹替）「私は正義から逃げてきたわけではありません。不公正と政治的迫害から逃れたのです。」

ナレ「ゴーン被告は先月 29 日、東京から新幹線で大阪に移動。黒い箱の中に身を隠し、関西国際空港の保安検査をすり抜け、プライベートジェットで出国したとみられている。」

ゴーン被告（吹替）「どうやって日本を出国したかについては話せません。」

ナレ「注目された逃亡の手段について会見で語ることはなかった」

金平「カルロス・ゴーン元 CEO の記者会見が始まってからもう 1 時間過ぎましたですけども、だんだん具体的な話になってきてその特別背任会社の財物を自分の私的な利用のためにというような部分についても、これは全く正当な手続きを踏んだもので罪に問われるようなことはないという。」

ナレ「ゴーン被告は日産の資金の一部を指摘に流用したという特別背任などの罪に問われている。会見では文章示し、資金を使う際は日産の組織的な承諾を得ていたと主張した。」

ゴーン被告（吹替）「全ての嫌疑については私は無実です。証拠となる多くの文章でそれを証明できます。」

ナレ「会見の場にいたゴーン被告の知人カラム氏は一連の発言のどう受け止めたのか」

カラム氏（吹替）「彼は与論の大半を味方することに成功したと思います。期待以上でした。」

金平「えーと今今日写真も全部買ってきましたけど無罪を全世界の前で視聴したっていうのは見出しになってますけど、扱いがこう彼がこう身振り手振りで、自分の無罪を主張したっていう、こういう間なんか映像ってか画像がニュースとして扱われてると面白おかしく報じられてるっていうのはあってですね。それ以外のものの中には全く無視してるものもあるんですけども、まあ絵ですね映像的な面白さとかこう非常に雄弁に語ったみたいなものが来て全面に紹介されてる。」

ナレ「一方日本では」

森まさこ法相「国外に逃亡し刑事裁判そのものから逃避をしたわけであってこれはどの国の制度のもとでも許されることではございません。」

西川広人前社長「ちょっと拍子抜けしましたね。「あの程度の話だったらば、日本で話をすればいい話でね。また裏切られたなという感じが強いですね」

ナレ「そして会見の 2 日後、ゴーン被告は改めて日本メディアの代表取材に応じた。

ナレ「事前に質問を提出するよう要求。部屋に入れたのは数社だけだった逃亡計画について尋ねると」

ゴーン被告（吹替）「誰も知りませんでした家族も弁護士も。こうしたことを計画するときには一人でやらないといけません。もし口にしてどこかで情報が漏れたら、それが大惨事を招きます。検察で監視カメラで私が家を出るところを確認しています。その次の日に私がレバノンに現れました。これが事実です。」

記者（字幕）「Q 日本から合法的に出国したと言いましたが？」

ゴーン被告（吹替）「いいえ違います。そんな主張はしていない。日本から合法的に来たとは一度も言っていません。」

記者（字幕）「将来的に合法だと主張しますか？」

ゴーン被告（吹替）「このことについてメディアに話すつもりはありませんがノーコメントです。」

ナレ「ゴーン被告は日産とともに自分を陥れた日本政府関係者の名前を会見で公表すると予告していたが取りやめたという」

ゴーン被告（吹替）「名前を明らかにしなかったのは、レバノンと日本、両政府の間の緊張を高め、問題を大きくしたくなかったからです。」

ゴーン被告 (吹替)「陰謀だというたくさんの証拠書類があります。一つではありません。多くの証人もいますし、陰謀を画策する会議も開かれました。全ての容疑が根拠のないものだと証明できますよ。少しずつ日産検察に対して声を上げ、証人になってくれる人が増えると期待しています。今は誰も声をあげていません。こわいですからね。」

ナレ「ゴーン被告は、集めた文章などの証拠をメディアに公表し、レバノンで裁判を受ける用意があると話した。」

ゴーン被告 (吹替)「レバノンの司法制度を信頼していますし、私も協力しています。昨日は検察の事務所に呼び出され事情聴取も受けましたパスポートも提出しました。」

記者 (字幕)「何か後悔したことはありますか？」

ゴーン被告 (吹替)「私を裏切った多くの人を信用したことです。才川さんは私が裏切ったと話していますが彼がその道の専門家だと思います。」

ナレ「経済的な苦境にあるレバノン。政府への抗議活動をしている人に話を聞くと」

レバノン人女性 (吹替)「私たちは経済危機に直面しています。国は電力に大金を使っているのに停電が非常に多いんです。多くのレバノン人はゴーン被告をよく知りません。私たちが求めているのは腐敗していない政権です。」

ナレ「レバノン政界の汚職などを告発してきた弁護士のアリ・アッパース氏。ゴーン被告が日産の会長だった当時。レバノンと敵対するイスラエルに入り取引したのは、法律に違反している。として今月 2 日司法当局に申し立てた。」

金平「ゴーン被告を訴えているという話を聞きましたけどもなんでその訴えを起こしたのか」。

アッパース弁護士「今までもこのような罪を犯したレバノン人は裁かれてきました。ゴーン被告も他の人と同じく公平に法律に従うよう訴えを起こしました。」

ナレ「だが、アッパース氏は、レバノン政府がゴーン被告をかばうためこの訴えを利用することを危惧している。」

アッパース氏 (吹替)「レバノン政府はゴーン被告を日本に引き渡さないようこの裁判を長引かせる可能性があります。そうすれば国際社会や日本政府からの批判をかわすことができます。」

ナレ「日本の捜査当局はゴーン被告だけでなくキャロル夫人についても、偽証の疑いで逮捕状を取り ICPO を国際刑事警察機構に国際手配を要請した。しかしレバノンと日本の間には犯罪人を引き渡す条約が結ばれていない。」

ナレ「レバノン当局がゴーン被告を事情聴取した後、初めてセルフアン暫定法相が番組の取材に応じた。」

セルフアン氏 (吹替)「日本政府が調子を取り戻したいのであればその要請と共に日本国内での全ての捜査資料を我々に提出しなければなりません。」

ナレ「当局は被告のパスポートを押収し 40 日間の出国禁止令を課している。」

セルフアン氏 (吹替)「日本政府に捜査資料の提出を求めています。出国禁止期間の 40 日の間に対応しなければこの禁止令は無効となります。レバノン駐在の日本大使からは日本の政府と国民が注目しているので、この事件に最大の関心を払い外部からの干渉を排除して、レバノンの司法当局の適切な対応を求めると言われました。」

ナレ「ゴーン被告がレバノンに逃れたことで取り残された人物がいる。共に起訴をされた日産の元代表取締役グレッグケリー被告だ。去年 9 月には番組の取材にこう話していた。」

グレッグケリー被告 (吹替)「公判では真実を話すつもりです。犯罪の嫌疑については私は断固否認します。」

ナレ「今回改めて私たちに今の心境を明かした。」

グレッグケリー被告 (吹替)「ゴーンさんが出国したことで、私の裁判が遅れることは容認できません。4 月からの裁判は予定通り進めていただきたい。最重要証人がいなくなった理由ですが、公正な裁判を望みます。」

ナレ「ゴーン被告が痛烈に批判した日本の司法制度」

ゴーン被告（吹替）毎日 8 時間の取り調べが弁護士の立会いもなく続けました。クリスマスも正月も 1 人で拘留されていました。有罪率 99.4%という司法制度に直面しました。この数字は外国人の場合さらに高くなると思います。」

ナレ「一連の発言の日本の司法関係者はどう見たのか。元裁判官の水野教授はゴーン被告を擁護はしないが、人質司法について議論すべき点はあると話す。」

元裁判官・法政大学法科大学院 水野智幸教授「ゴーン氏は保釈条件は破って、まあ密出国まあ犯罪ですよ、それを犯して、海外に行ったわけなんで、そこはどうかって正当化できるものではない。と思います。まあゴーン氏がそこで言った日本の人質司法の問題点については、自白をすればまあ早くに身柄が解放される。で自白をしない限り、なかなか身柄拘束は解かれないと、そういう事実は確かにあると思います。でそれが海外にはあのあまりそういうところで左右されないという面で、かなり日本独特の司法の現場になってると。」

ナレ「一方元検察官の高井弁護士は司法制度は国ごとに異なるため、ゴーン被告の批判は全く当たらないと憤る。」
高井弁護士「司法制度そのものについては、99%の有罪率ということを言ってるわけですが彼はそれ何が言いたかったのかよくわからないんですね。もう日本の有罪率が 99%以上あるのは検察官が自分の手で、慎重に捜査をして少しでも無罪になる可能性のあるものについては、全部不起訴にしてしまうと。むしろ慎重に起訴をしている日本の検察権の運用の方が人権に配慮してると。特に被疑者の人権に配慮してるということは、はっきり言えると思うんですね。それでは全く当たってない。」

ナレ「その上で検察は今の状況を放置してはいけないと強調する。」

高井弁護士「身柄をさらわれたままありていに言って、指をくわえてね、見ているというようなことがあってはね、これは日本の司法が骨抜きにされるとた状態そのまま甘受するということになりますから、そのことがあっては絶対にならない。こうなったら何が何でも身柄は取り返さなきゃいけない。そのためにできることは何でもやるべきだという風に思いますね。」

VTR を受けて以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「レバノンの金平キャスターに聞きます。金平さん 8 日の記者会見ですけれども独特でしたよね。」

金平「記者会見なんですけれども、ゴーン氏は身振り手振りをですね示してこう雄弁な姿を示して、全盛時の自分の姿を演出したかったんでしょうけれども、内容的に新しい事実はありませんでした。記者会見というかは、プレゼンテーションっていうような印象を私は受けました。記者会見に入れたのはゴーン氏が選んだ日本は 3 社だけだったんですけれども、僕はその外でスマホで見てたんですけれどね、その会場の中で支持者からこう拍手が湧きおこったり、時折違和感を覚えました。彼をヒーロー視にするつもりは全然ないんですけれどもその財力とか権力の凄みみたいなものですね、見せつけられたような思いはしました。ただゴーン氏が主張している日本の司法制度の欠陥ですとか、あるいは人権保護感覚の欠如という認識は、ここレバノンやフランスでも広く共有されています。この事に関しては日本の報道と海外の報道の間にはかなりのギャップがあります。日本の法務検察当局というのは、謙虚にですね外の評価ということに、きちんと耳を傾けるべきではないかというふうに私は思いました。」

膳場「あの金平さんゴーン被告の逃亡について、これはレバノンの国内でも人々の受け止め方様々なようですね。」

金平「あの評価はですね、レバノンでの評価ははっきり分かれています。背景として政治経済の混迷ということがあるんですけれども、そこに突然大富豪のゴーン氏が戻ってきたと。社会改革を叫んで抗議行動を行ってる人達にとっては、この後ろにある実は壁画はですね、その抗議行動の象徴なんですけれども、そういう人達にとってはゴーン氏なんかどうでもいいと。腐敗のシンボルだとそもそもゴーン氏を知らないという人たちの反応も意外と多かったです。それ以上に 1 月 3 日にですねアメリカ軍がイラン革命防衛隊のスレイマニ司令官を殺害した

ことから中東情勢がこのレバノンを含んで一気にこう流動化したということがあります。ですからゴーン氏にとってはその故郷のレバノンも決して安住の地とは言えないというような状況になっています以上ベイルートからでした。」

この特集に当てられた時間は 1488 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・【特集】 ゴーン被告～司法批判の裏に何が

特集で人質司法について言及されていた。また、99%を超える有罪率を誇る司法のあり方であるとか、そうした検察の在り方を背景に容疑の段階であるにも関わらずあたかも犯罪者であるかのように奉じるメディアの事件報道のあり方も日本の問題と言えるだろう。今回のゴーン事件、密出国というのは許されざる行為ではあると思うが、外国人が安心して日本に投資したり日本でビジネスができるよう、司法のあり方や事件報道のあり方のコンバージョンを促進し、成長戦略や経済政策に資するような議論に一石を投じることになれば、と検証者は期待している。

ところで、カルロス・ゴーン氏が楽器ケースに身を隠して出国するという脱出劇を聞いて、自民党の田中六助幹事長が宅急便の荷物に扮することでメディアの目をかいくぐり目白の田中角栄邸を訪れた、ということが昔あったなと思い出したのだが、まさかそうした荷物に扮して移動するということが空港でも行われてしまうとは夢にも思っていなかったのが驚きを隠せない。